

<対策のポイント>
ばれいしょ・てん菜等について、畑作営農の大規模化に伴う労働力不足や頻発する異常気象による湿害等に対応し、早急に生産の高度化・安定化を図るため、**省力作業体系の導入や生産性向上技術の導入、労働負担の小さい作物への転換、種ばれいしょの生産性向上等を支援**します。

- <政策目標>**
- 需要のあるばれいしょ用途への10%以上の転換 [平成35年度まで]
 - ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の作付割合を50%以上に拡大 [平成35年度まで]
 - ばれいしょ、てん菜に係る労働時間の10%以上の削減 [平成35年度まで]

<事業の内容>

<事業イメージ>

- 1. 省力化等の推進**
- ばれいしょ・てん菜等の省力化、輪作年限の延長（豆類の導入）や労働負担の小さい作物への転換、土壌・土層改良に必要な作業機械の導入等を支援します。
 - ばれいしょ・てん菜の適期作業の推進のための基幹作業の作業受託組織への外部化を支援します。
- 2. 新技術の導入**
- 湿害対策、病害虫抵抗性品種の導入、産地技術講習会等の開催を支援します。
- 3. 労働負担の小さい作物等への転換促進**
- 労働負担の小さい作物への転換や輪作年限の延長のための新規作物の導入を支援します。
- 4. 種ばれいしょの生産力の向上**
- 種ばれいしょ産地の育成、種ばれいしょ品質向上技術の導入を支援します。
- 5. ばれいしょ新品種等の早期普及**
- 生産現場レベルでの大規模実証を支援します。

畑作産地の課題

大規模畑作地帯では、3～4品目による輪作が営まれているが、離農等により担い手の規模拡大が進む中、労働負担が大きいばれいしょやてん菜の作業が競合し、輪作の乱れが顕在化。更には、病害リスクの拡大や加工用ばれいしょの需要増加、近年の多雨傾向から湿害による減収への対応が喫緊の課題。

畑作産地において生産性向上等を図るため、次期作に向けて、以下の取組などを早急に支援

- 1. 省力化等の推進**

 - ・ ばれいしょのソイルコンディショニング栽培体系や粗選別機の導入
 - ・ 作業受託組織への外部化
- 2. 新技術の導入**

 - ・ 新たな営農排水技術の導入（例：カットソーラーによる有材心土破碎技術）
- 3. 労働負担の小さい作物等への転換促進**

 - （例：子実用トウモロコシ）

